

社会 1次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	55.5	56.0	<p>八重山列島に関する地理的要素に着目し、それらに関連した選択肢問題および語句問題を出題した。受験生であれば確実に得点しておきたい定番問題を複数組み込んでいるため、それらに正答することは大前提となっている。それ以外の設問についても、特段難易度を高くしたつもりはないが、想定よりも正答率が低くなった問題について言及する。</p> <p>問1は、世界地図を日常的に確認している生徒であれば、迷うことなく解答できる問題である。日頃の学習に、地図帳を用いることを忘れずに。問6では、ホッケ・タラ・サンマの漁獲量日本一が北海道であること、また沖縄県ではマグロの漁獲量が上位となっていることを問うている。問8は環境問題と関連付けた設問であり、「白化現象」について、やや難しい表現で説明している。各用語については、名称だけでなく、その意味まで含めて正確に理解しておくことが重要である。問10は、グラフの形状に惑わされることなく、まず軸の数値に注意を払うことを忘れてはいけない。そのうえで、時間の経過に伴う年齢層の変化を意識すれば、正しく判断することができるだろう。</p>	
	問2	89.0	93.3		
	問3	85.8	89.3		
	問4	87.1	88.0		
	問5	82.6	86.7		
	問6	26.5	32.0		
	問7	87.1	90.7		
	問8	43.2	42.7		
	問9	68.4	73.3		
	問10	25.2	26.7		
【2】	問1	76.1	77.3	<p>日本の歴史における争いをテーマとしたリード文より、歴史の基礎的知識を問う出題であった。</p> <p>受験生の解答に関しては、全体的に良く出来ていたと思う。その中で正当率が低かったのは、問8の江戸幕府に関する問題、問10の第一次世界大戦に関する問題であった。2問とも正誤問題であったが、けして難易度が高い問題であったとはいえない。それなのに出来が良くなかった理由を考えてみれば、単純に歴史の基礎知識が定着していなかったのか、また、30分の試験時間の中で全体の問題を解答するために時間配分を考え、問題文をよく読まず、内容を十分に把握せずに解答したのではないのかと推測される。いずれにしろ受験生全体として、しっかりと学習していたことを発揮して解答出来ていたと思う。</p>	
	問2	62.6	69.3		
	問3	74.2	81.3		
	問4	89.7	88.0		
	問5	85.8	85.3		
	問6	70.3	77.3		
	問7	93.6	96.0		
	問8	55.5	57.3		
	問9	87.7	93.3		
	問10	54.2	56.0		
【3】	問1	21.3	32.0	<p>「人と動物の関わり」をテーマに、探究型の会話文を読んで考える問題であった。</p> <p>正答率が低かった問題としては、問1、問2（論述）、問7（論述）、問8（論述）があげられる。問1はグラフから数値を読み取り正誤を判定する出題であった。グラフに示された数値の単位を読み間違えないようにする必要がある。問2は、沖縄県で販売されている牛乳パックの容量から、沖縄の歴史を考える出題であった。理由の説明として、アメリカによる占領統治の歴史と、アメリカでの牛乳などの飲み物の販売容量の単位について説明する必要がある。問7では、代替肉のSDGsの観点からの有用性を、本文の会話から読み取り答える出題であった。本文をしっかりと読み込むことが必要である。問8は、豚とラクダの飼育頭数に地域的な差がある理由を、統計や地図そして問題リード文である会話から読み取り、考える出題であった。問題で示された統計や地図から読み取った内容を、述べたいことが読み手にきちんと伝わるように丁寧に記述することを心がけて欲しい。</p> <p>新聞やニュースなどで報道されるできごとについて、地図で位置を確認したり、できごとの歴史的経緯について調べたり考えたりすることを、日頃の学習でも意識して欲しい。</p>	
	問2	論述	35.5		44.4
	問3		69.0		72.0
	問4		61.3		72.0
	問5		69.0		69.3
	問6		68.4		80.0
	問7	論述	36.1		39.3
	問8	論述	23.9		26.7

社会 2次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	79.2	79.6	<p>昨年行われた「大阪万博」をテーマにした出題であった。</p> <p>全体の正答率が低かったのは問4と問9で、どちらも語句問題であった。問4は、環境問題について注目を集めている「エコタウン」、問9は情報化社会に関する重要語句についての問いであった。これらの語句はニュースでも耳にする機会が多い。社会の勉強をする際は時事に注目し、知らない単語があったらすぐに調べる癖をつけるとよい。</p> <p>受験者と合格者の間で点差が大きかった問題では問10が挙げられる。まずは紹介文をもとに「沖縄県」であることを推測し、その後那覇市の雨温図を選ぶ問題であり、文章やグラフなど、読み取るべき内容が多かった。地理は、語句の暗記とともに、グラフなどの統計の読み取りが必要不可欠な科目である。覚えた知識と統計を結びつける練習をして、社会の力を伸ばしてほしい。</p>	
	問2	59.4	64.3		
	問3	74.8	74.5		
	問4	4.9	6.1		
	問5	91.8	91.8		
	問6	49.6	53.1		
	問7	56.6	70.4		
	問8	67.9	74.5		
	問9	47.3	63.3		
	問10	68.4	83.7		
【2】	問1	(1)	75.1	80.6	<p>民主主義の歴史、というテーマで出題した。</p> <p>問2・3・5など、受験生が苦手としがちな社会経済史を中心に出題したが全体的に正答率が高く、分野をしばらく満遍なく学習に取り組んでいることがうかがえた。</p> <p>問1(2)、大養毅の「毅」の字や、問6、板垣退助の「板」「垣」の字など誤字が目立った。重要語句については自信をもって漢字で書けるようにしておいていただきたい。</p> <p>最も正答率が低かったのは問3だった。まず、名古屋と北九州は近代以降、工業化とともに発展していった都市であるため、最初から選択肢から外れてくるはずである。その上で、名古屋については名古屋城を想起すれば、そして博多についてはその立地を考えるとともに、宿場町は基本的に五街道沿いに形成されていったものであることを考えれば、正答にたどり着くことができたはずである。</p>
		(2)	87.7	94.9	
		(3)	98.5	98.0	
	問2	66.1	74.5		
	問3	58.4	64.3		
	問4	81.2	90.8		
	問5	94.9	98.0		
	問6	89.2	94.9		
	問7	65.8	70.4		
	問8	72.0	79.6		
問9	84.1	89.8			
【3】	問1	59.9	69.4	<p>「社会の用語や、ここ数年の時事問題」をもとにした総合問題であった。</p> <p>問1の「輸出依存度」は聞きなれない語句であったと思われるが、解答するにあたり、問1中の説明文や選択肢の「工業の特色」からその特徴を読み取る必要があった。</p> <p>問3は、リード文や[X]～[Z]の選択肢の情報から、インドとアメリカ合衆国やイギリスとの関係性を読み取ることができるかどうかのポイントであった。問6はリード文にエルニーニョ現象のメカニズムが説明されているため、用語そのものをしっかりと理解をしていなくても、リード文から現象をイメージして選択肢の図を読み取る力が問われた。</p> <p>問7の記述問題では、指定語句については「語句には必ず全てに下線を引きなさい」という指示があったにも関わらず、下線を引き忘れた解答が多く目立った。また、問題文に記載されている「卸売業」の「卸」の漢字を間違っている解答も目立った。卸売業と小売業の販売額が示す「異なる」特徴を説明する問題であったが、双方を区別せずに、「人口の多い都市で販売額が多い」という解答や、指定語句の「地方」をそのまま使用した「地方では販売額が多い」などの解答が目立った。</p> <p>問8の記述問題では、「インターネット上に発信された情報の特性を挙げた上で」との指示があったが、その特性について触れずに、学習活動だけを記述している解答も見受けられた。</p>	
	問2	58.6	63.3		
	問3	13.1	16.3		
	問4	77.1	80.6		
	問5	40.1	48.0		
	問6	33.9	48.0		
	問7	論述	4.5		9.5
	問8	論述一つ目	49.5		61.2
論述二つ目		24.9	33.2		

社会 3次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	64.9	68.6	<p>プロ野球の12球団の本拠地が位置する都道府県をテーマに出題した。基本的な地理の知識、与えられた資料を読み取る力があれば、高得点を取れる問題が多かったと考えられる。</p> <p>正答率が低かった問題に触れる。問2では、北海道の自然環境についての理解力を問うており、北海道は広いため、選択肢にある石狩川や北見盆地、帯広市、根釧台地、十勝平野などの地名が、それぞれ北海道のどのあたりに位置しているのかを意識して学習できているかを確認した。日頃から進んで地図帳を開き、白地図に重要な地名を書き込む習慣をつけてほしい。</p> <p>問3は、一見見慣れない問題に思えたかもしれないが、「昼夜間人口比率」が高いということは、居住者より通勤・通学者などが多いことを意味し、また「乗用車の100人あたり保有台数」が多いということは、公共交通機関が比較的不十分な地域であることを意味することに気づければ、それほど取り組みにくい問題ではなかったと思われる。</p> <p>知識の獲得も大切だが、それと同時に「このデータから読み取れることは何か」などを毎日の学習で意識しながら、思考力も養ってほしい。</p>	
	問2	65.9	56.9		
	問3	58.5	54.9		
	問4	82.9	86.3		
	問5	68.8	66.7		
	問6	59.5	56.9		
	問7	87.3	90.2		
	問8	51.7	56.9		
	問9	75.6	76.5		
	問10	72.7	64.7		
【2】	問1	75.1	72.5	<p>日本の歴史に関して、時代の流れや前後関係を理解できているかをテーマに年表形式で出題した。</p> <p>正答率が低かった正誤問題の問2では、まずは古墳が「作られ始めた時期」を理解していること。問7に関しては、奥州藤原氏が存在していたので、頼朝が東北北部まで支配下に置いたとは言えないという点、元寇直後には九州防備の整備や管理などで大規模な反乱は起こっていないということ。以上の点を確認していただきたい。</p> <p>知っている用語や知識＝正しいと判断してしまわず、文中の条件や時代のズレに注意することが大切である。また、時代の前後の流れや条件等々を意識して考えるように学習をしていこう。</p>	
	問2	47.3	56.9		
	問3	73.2	74.5		
	問4	84.4	80.4		
	問5	51.2	49.0		
	問6	49.8	41.2		
	問7	25.9	25.5		
	問8	62.4	62.7		
	問9	94.6	98.0		
	問10	72.7	80.4		
【3】	問1	37.1	37.3	<p>「何気ない」日常に疑問を向ける、ということをテーマに出題した。正答率が低かった問題は、問1・問9の記号問題と問4・問5・問6の論述問題であった。問1はリード文中の内容の趣旨を理解することを求めた問題である。問9は日本の高度経済成長期について、経済成長に伴う人々の生活の変化に注目した。歴史を学ぶ際には、何から何に変化したのかに注目してほしい。</p> <p>問4は初詣が実は比較的最近人々の慣習になったことに注目し、なぜ明治時代になって現在のような形で行われるようになったのかを資料をもとに考える問題であった。問5は第一次世界大戦の時期の日本の玩具輸出額が伸びたのかを説明する問題であった。問6は地域ごとに節目とする時期が異なる理由を問う問題であった。こうした論述問題を解く際には、資料をよく読み、何を問われているかを考えて解答するように心がけてほしい。</p>	
	問2	79.5	78.4		
	問3	63.9	54.9		
	問4	論述	21.0		13.7
	問5	論述	35.5		40.5
	問6	論述	10.2		15.7
	問7		79.5		80.4
	問8		55.1		51.0
	問9		36.1		35.3